

2026年3月期 第3四半期決算補足資料 (2025年4月 – 2025年12月)

2026年2月9日

マルハニチロ株式会社(TSE:1333)



2026年3月期 第3四半期概況

決算ハイライト① 連結全体



- 3Q累計として営業利益は最高益の294億円を達成
- 特に水産資源セグメントの収益大幅改善と欧州事業の好調が貢献し、全体で增收増益

(単位:億円)

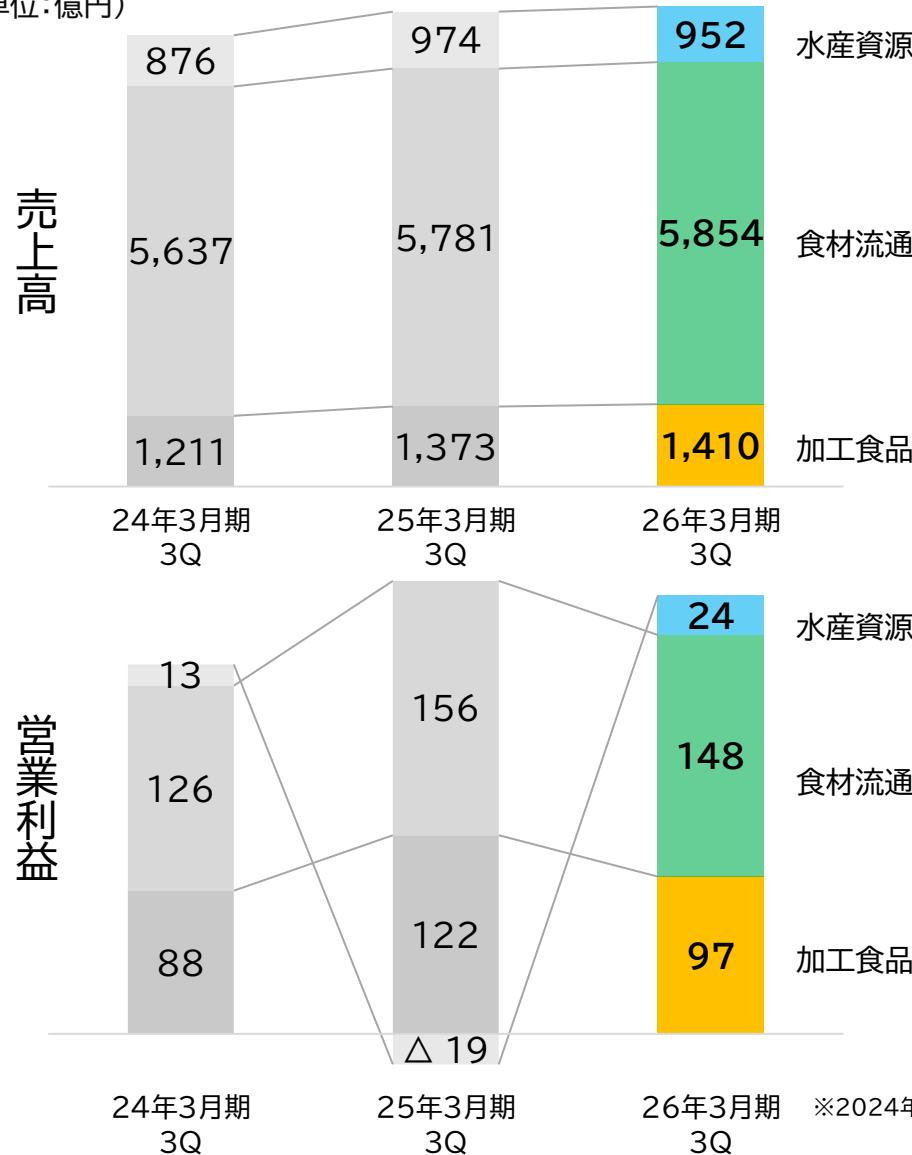
	26年3月期 3Q	25年3月期 3Q	前年対比	
			増減	増減率
売上高	8,376	8,281	95	+1.1%
営業利益 (営業利益率)	294 (3.5%)	278 (3.4%)	15	+5.5%
経常利益 (海外経常利益比率)	292 (47.4%)	310 (38.5%)	△ 18	△5.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	175	232	△ 57	△24.7%

期中平均為替レート	26年3月期 3Q	25年3月期 3Q
米ドル	148.82円	150.61円
ユーロ	165.51円	163.86円
タイバーツ	4.49円	4.25円

決算ハイライト② セグメント別概況



(単位:億円)



水産資源

水産資源

食材流通

食材流通

水産資源

加工食品

食材流通

加工食品

減収増益(セグメント利益24億円 前年比+43億円)

操業効率の改善(漁業)や、生産拠点統合(北米)による効果などが継続して増益に貢献。加えて漁業での漁獲増や魚価堅調、養殖の增收・歩留まり改善と北米でのミール相場堅調もあり大幅増益

增收減益(セグメント利益148億円 前年比△8億円)

水産商事は水産物の販売好調に加え、昨年5月に取得した欧州子会社の影響で増益も、食材流通と農畜産の減益が影響し、セグメント全体では增收減益。

增收減益(セグメント利益97億円 前年比△25億円)

<国内>価格改定後の市販用商品の販売数量が計画未達などにより減益
<海外>ペットフード(タイ)は北米向け販売が継続して堅調も、為替影響により減益

※2024年3月期は参考数値です。

2026年3月マルハニチロは、Umiosへ



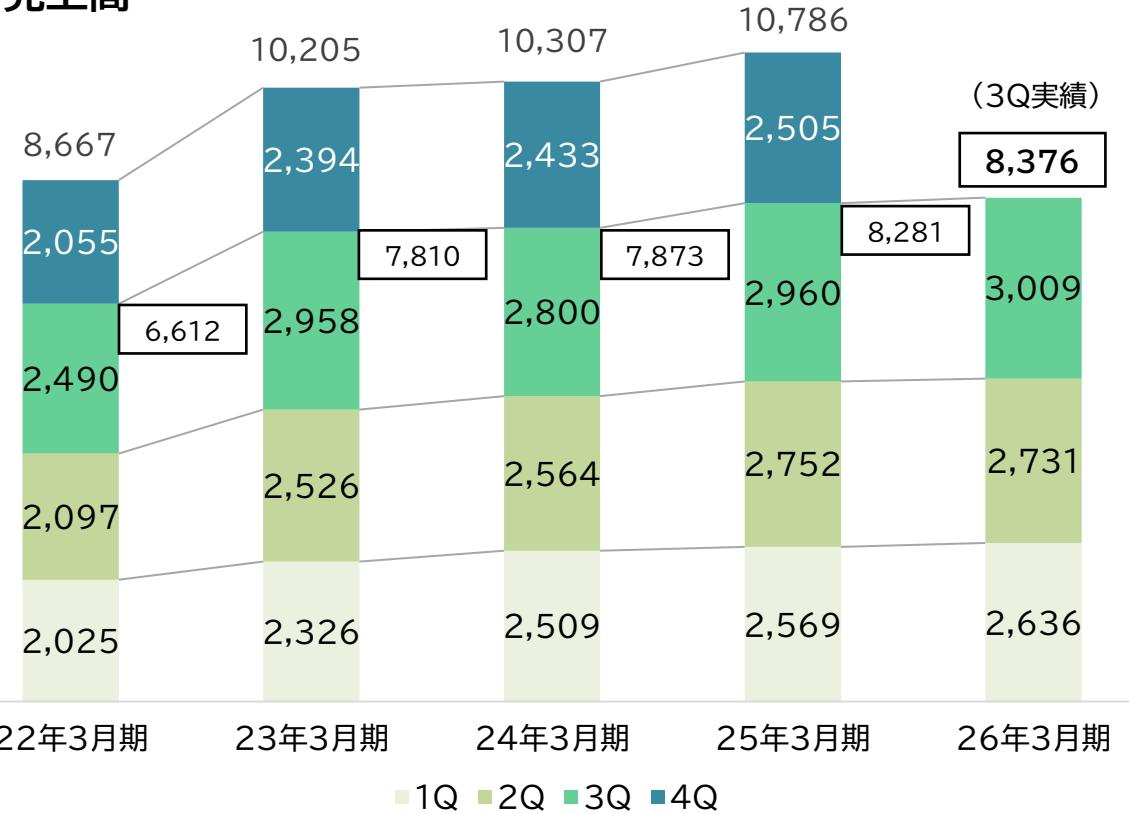
決算ハイライト③ 四半期業績推移



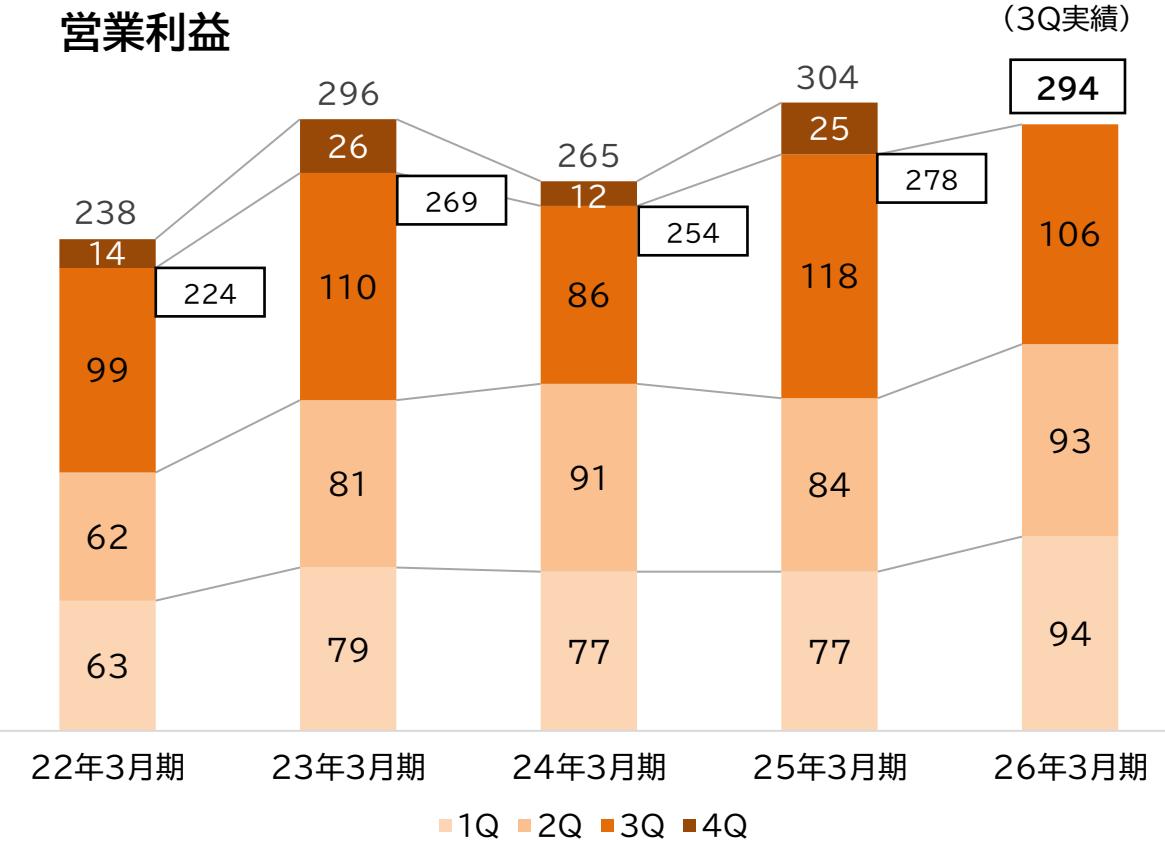
営業利益は、第3四半期累計で過去最高となる294億円を達成し、通期予想達成に向け順調に推移

(単位:億円)

売上高



営業利益

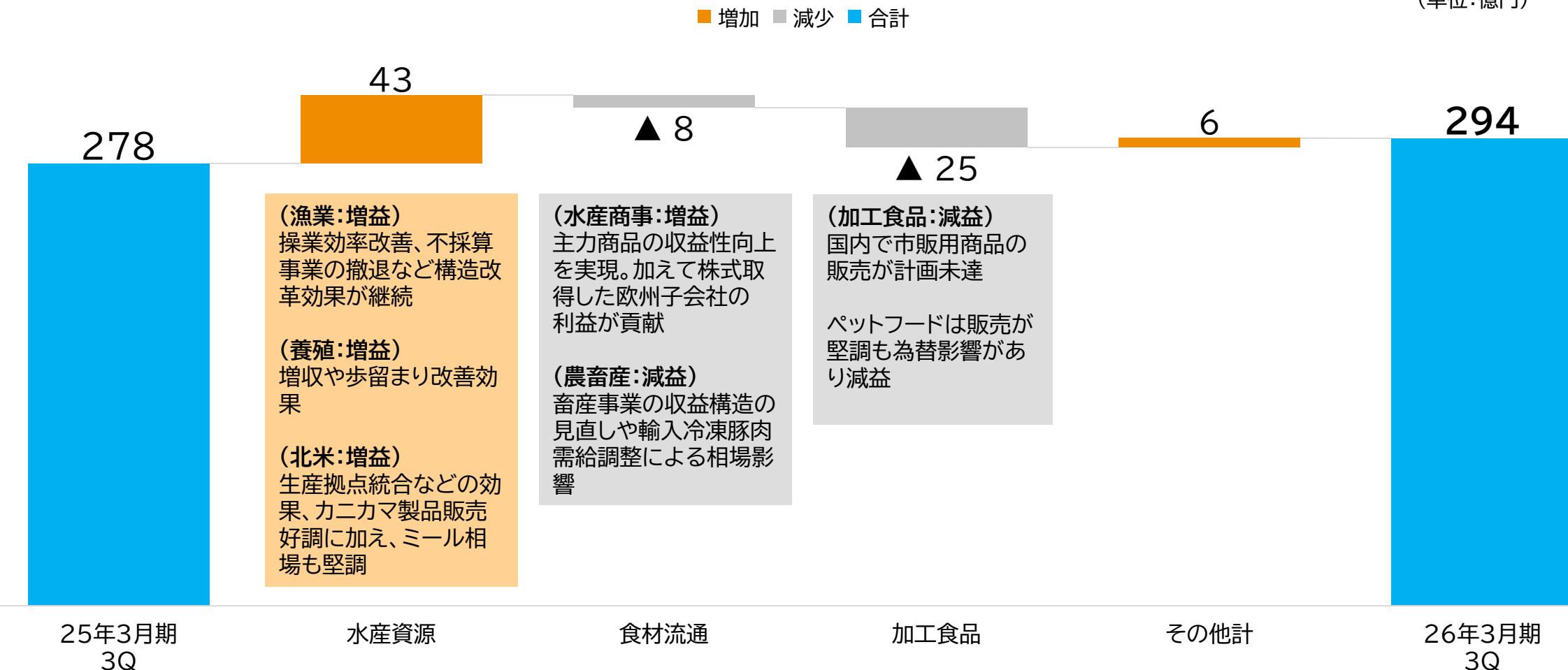


営業利益の増減要因(前年対比)



水産資源セグメント大幅改善、食材流通セグメントならびに加工食品セグメントは減益

(単位:億円)



操業効率の改善や生産拠点統合効果、相場堅調などにより3ユニットとも増益、全体では43億円増益

	ユニット	前年対比			
		26年3月期 3Q	25年3月期 3Q	増減	増減率
売上高	漁業	262	302	△ 40	△13.3%
	養殖	158	132	26	+19.7%
	北米	532	539	△ 7	△1.3%
	セグメント計	952	974	△ 21	△2.2%
営業利益	国内	3	△ 14	17	—
	海外	21	△ 5	26	—
	セグメント計	24	△ 19	43	—
	営業利益率(%)	2.6%	—	—	—
	営業利益の詳細は こちら				

ユニット	3Qの状況
漁業 (減収増益)	ミクロネシア海域のカツオの漁獲減や魚価低迷により減収。 一方で操業効率の改善などによる漁獲増や不採算事業からの撤退などにより増益
養殖 (增收増益)	ブリ・カンパチの販売価格が堅調。生産コスト(資材費、人件費、物流費など)の高止まり継続も、增收効果ならばに歩留まり改善により増益
北米 (減収増益)	スケソウダラ製品相場が堅調に推移。生産拠点の統合などによるコスト低減効果やカニカマ製品の販売が好調に加え、ミール相場の堅調もあり大幅増益

水産商事は国内外ともに好調も、コスト上昇や畜産事業の収益構造見直しもあり、全体では減益

		(単位:億円)				
		ユニット	26年3月期 3Q	25年3月期 3Q	前年対比	
売上高	セグメント				増減	増減率
		水産商事	3,342	3,201	140	+4.4%
		食材流通	1,905	1,848	57	+3.1%
		農畜産	607	732	△ 125	△17.0%
	セグメント計	5,854	5,781	73	+1.3%	
営業利益	国内	101	118	△ 17	△14.4%	
	海外	48	39	9	+23.3%	
	セグメント計	148	156	△ 8	△5.1%	
	営業利益率(%)	2.5%	2.7%	△ 0.2	—	
	営業利益の詳細は こちら					

ユニット	3Qの状況
水産商事 (增收増益)	<国内>ホタテやエビなど水産物全般の販売は好調に推移 <欧州>主力商品の収益性向上に加え、2025年5月に取得した欧州子会社の利益も貢献
食材流通 (增收減益)	グループ内連携を強化し、業態ニーズを的確に捉えて、販路を拡大し增收。一方で、業務効率の改善や生産性向上に努めたものの、コスト上昇分を補いきれず減益
農畜産 (減収減益)	畜産事業の収益構造の見直しを継続中。加えて、国内市場における輸入冷凍豚肉の需給調整に伴う価格変動の影響により減収減益

加工食品(国内)の販売数量は計画未達。海外はペットフードの北米向け販売は好調も為替影響により減益

(単位:億円)

	ユニット	26年3月期 3Q	25年3月期 3Q	前年対比	
				増減	増減率
売上高	加工食品	1,350	1,316	34	+2.6%
	ファインケミカル	60	56	4	+7.2%
	セグメント計	1,410	1,373	38	+2.8%
営業利益	国内	35	49	△ 14	△28.6%
	海外	62	73	△ 11	△15.5%
	セグメント計	97	122	△ 25	△20.8%
	営業利益率(%)	6.9%	8.9%	△ 2.0	—
	営業利益の詳細はこちら				

ユニット	3Qの状況
加工食品 (增收減益)	<国内>市販用商品は価格改定後の販売が計画未達により減益 <海外>ペットフード(タイ)は北米向け販売が継続して堅調も、為替影響により減益
ファイン ケミカル (增收減益)	ヘパリンならびに医薬品向けの販売が堅調に推移

「健康価値」を中心とした「消費者起点」と「グローカル」による差別化戦略で競争優位性を強化

国内加工食品を取り巻く課題

- ① 原材料価格の高止まり
- ② 価格転嫁余地の狭まり
- ③ 消費者ニーズの多様化

差別化戦略

①消費者起点

(生活者一人ひとりの課題を解決するソリューション)

「健康価値」

差別化の中核として位置づけ

健康価値を起点とした
商品・事業展開
(次頁で詳細)

「おいしさ/簡単・便利」

おいしさや利便性など多様なニーズに
応える商品・サービスの提供



20-30代女性×韓国
をコンセプトにした
韓国冷凍麺
(チプポチャ)

②グローカル展開

(海外企業と連携した商品の投入)

韓国ドンウォン社との共創

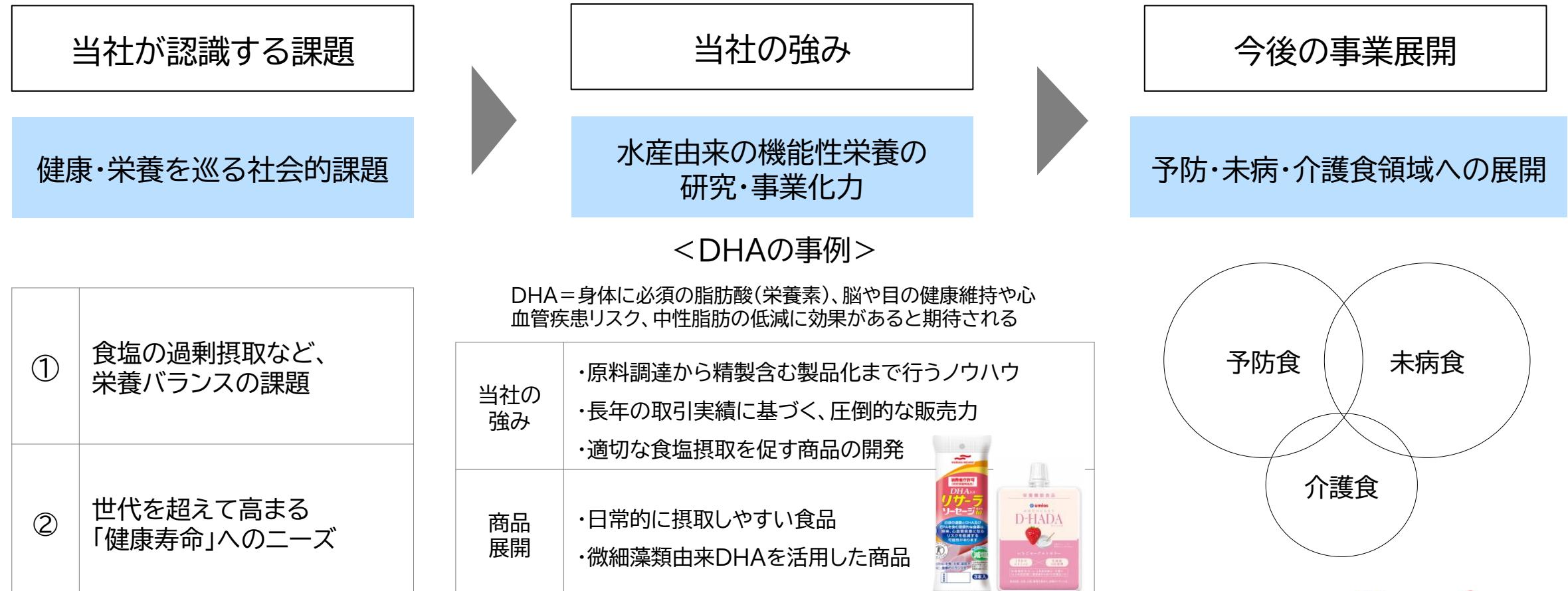


冷凍食品 韓国版 WILDish
「唐辛子ツナ炒飯」

(参考:海外展開)
北米やベトナムの子会社を通じた冷凍食品
などの生産・販売を強化

構造面での打ち手: 「市場変化に対応した生産体制の検討」

DHAなどの機能性栄養を活用し、健康寿命を支える“食”的提供を通じて、社会課題解決に貢献



連結貸借対照表



(単位:億円)

	25年12月末	25年3月末	増減	主な内容(前期末比)
流動資産	4,920	4,146	774	現預金(+96)、売上債権(+422)、 棚卸資産(+218)
固定資産	2,874	2,666	208	有形固定資産(+81)、無形固定資産(+12) 投資有価証券(+63)
資産合計	7,794	6,812	982	
流動負債	3,117	2,369	748	仕入債務(+161)、短期借入金(+243) コマーシャルペーパー(+250)
固定負債	1,835	1,689	146	長期借入金(△60) 社債(+180)
負債合計	4,953	4,058	895	
株主資本	2,041	1,971	70	利益剰余金(+119)
その他包括累計	353	325	28	
非支配株主持分	447	458	△ 11	
純資産合計	2,841	2,754	87	
負債純資産合計	7,794	6,812	982	
有利子負債	3,323	2,709	613	
ネットD/Eレシオ	1.1倍	1.0倍	0.1	
自己資本比率	30.7%	33.7%	△ 3.0	

連結キャッシュフロー計算書



(単位:億円)

	26年3月期 3Q	25年3月期 3Q	増減	主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 52	△ 43	△ 9	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前四半期純利益 (321) ・減価償却費(のれん含む) (149) ・投資有価証券売却損益<益:△> (△39) ・売上債権の増減額<増加:△> (△402) ・棚卸資産の増減額<増加:△> (△163) ・仕入債務の増減額<減少:△> (134) ・法人税等の支払額 (△112)
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 233	21	△ 253	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出 (△170) ・利息および配当金の受取額 (19)
財務活動による キャッシュ・フロー	382	83	299	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の増減額<減少:△> (125) ・コマーシャルペーパーの増減額<減少:△> (250) ・長期借入金の増減額<減少:△> (49) ・社債の発行による収入 (179) ・配当金の支払額 (△56)
現金・現金同等物の 期末残高	580	449	130	—

今後の見通し・施策

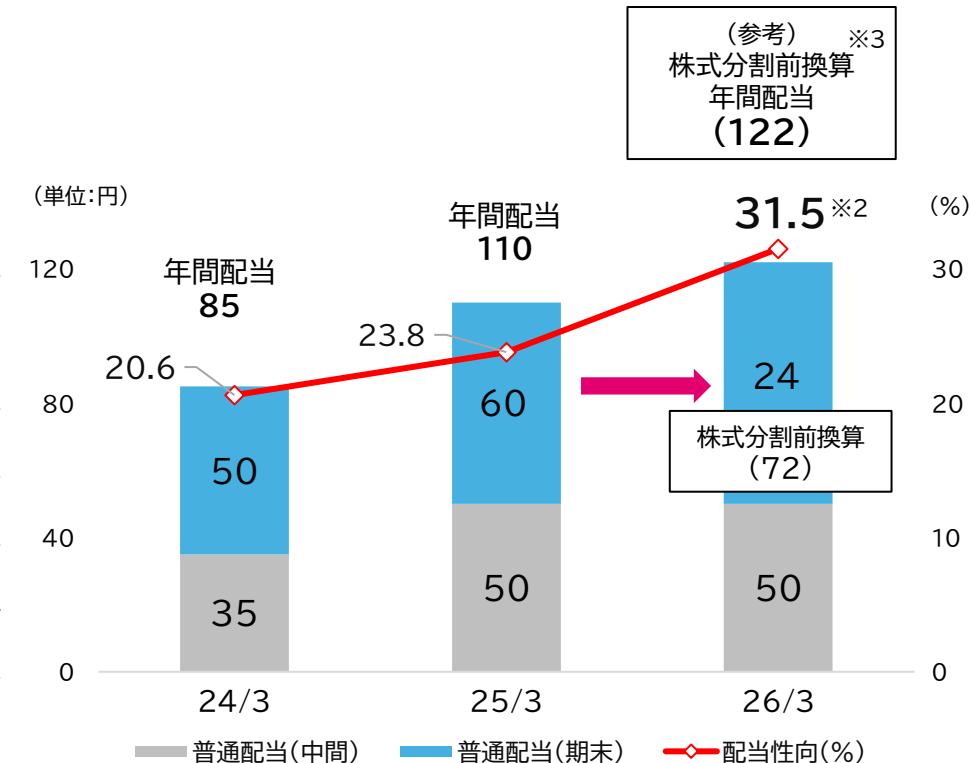
2026年3月期 通期計画と配当予想の修正について



- 4Qに特別損益※1の計上を見込むため、当期純利益を195億円に修正
- 併せて当期末の1株当たり配当金予想も4円増配し、24円に修正

<配当額・配当性向推移>

	25年3月期 実績(A)	26年3月期 計画(B)	増減額 B-A	26年3月期 3Q実績 (C)	進歩率 C÷B
売上高 (億円)	10,786	10,800	14	8,376	77.6%
営業利益 (億円)	304	300	△ 4	294	97.9%
(営業利益率) (%)	(2.8%)	(2.8%)	△ 0	(3.5%)	
経常利益 (億円)	323	290	△ 33	292	100.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (億円)	233	195	△ 38	175	89.7%
(ご参考) 1株当たり当期純利益 (円)	153.97	128.89	△ 31.60	115.78	-



※1 特別損益について

① 4Qに政策保有株式の縮減方針に基づく投資有価証券の売却、及び賃貸不動産の売却を予定

② 当該特別損益の額は、今後の市場動向や売却価格の変動などにより異なる可能性があるため、現時点では概算額で試算

※2 配当性向計算根拠: (中間配当16.67円(株式分割考慮後)+期末配当24円)÷1株当たり当期純利益128.89 = 31.5%

※3 2025年12月31日基準日として1:3の株式分割を実施

2026年3月期 セグメント別通期計画の修正について



事業環境の変化などによりセグメント別の通期営業利益計画を修正

	26年3月期 修正計画(1Q) (A)	26年3月期 修正計画(今回) (B)	1Qvs今回 増減 (B-A)
売上高			
水産資源セグメント	1,348	1,348	0
食材流通セグメント	7,316	7,316	0
加工食品セグメント	1,926	1,926	0
その他	210	210	0
合計	10,800	10,800	0
営業利益			
水産資源セグメント	6	18	+12
食材流通セグメント	170	168	△2
加工食品セグメント	136	111	△25
その他	△ 12	3	+15
合計	300	300	0

<セグメント別修正の主要因>

水産資源セグメント(+12)

漁業:(+3)操業効率の改善効果に加え漁獲販売が想定より好調
北米:(+9)ミール相場の改善、北米で力ニ力マ販売が想定以上に堅調

食材流通セグメント(△2)

食材流通(△7)コスト上昇の影響継続
農畜産(△5)輸入冷凍豚肉の相場影響

加工食品セグメント(△25)

加工食品(△24)市販用商品販売の計画未達が継続、ペットフードは為替影響

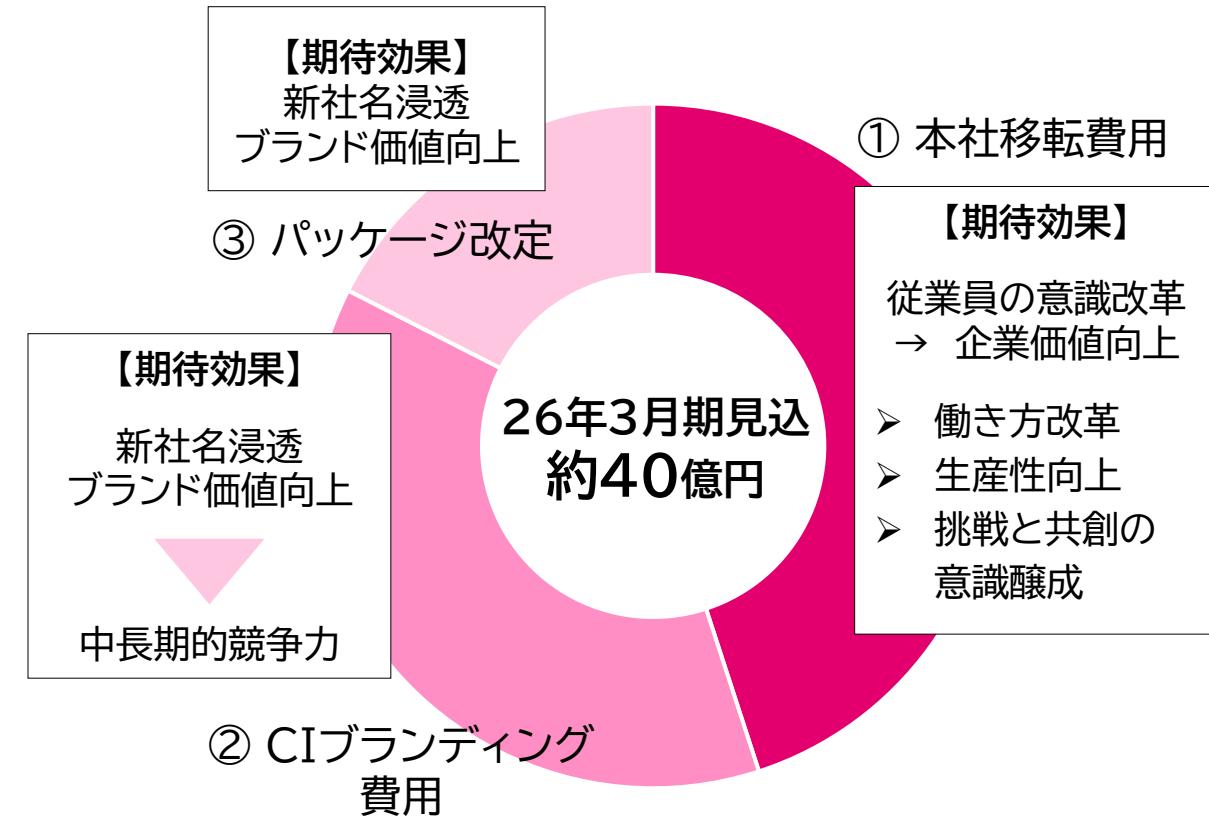
その他(+15) 企業変革費用の見込み減、セグメント間調整による影響

<項目別の年度別・四半期支出イメージ>

※26/3期の企業変革費用の見込みは予算50億円から40億円に修正

	26/3期		27/3期	28/3期
	3Q	4Q		
当初予算	50億円		30億円	20億円
今期見込み※	40億円			
本社移転費用 (26年3月実施)		→		
CIブランディング費用 (26年3月社名変更)		→		
パッケージ改定費用	→			

<26年3月期の内訳イメージと期待効果>



セグメント・ユニット		事業環境
水産資源	漁業	4Qは季節要因により赤字を見込むも、3Q累計での収益積み上げにより、年間着地は上向く
	養殖	生産コストは高止まり継続も、增收効果ならびに歩留まり改善により、2Q見込みより収益改善
	北米	生産コストは継続的に高水準となる見込みも、ミール相場が2Q時点の想定より堅調に推移する見込みにより収益は上向く
食材流通	水産商事	商材価格は高値圏継続も、消費は底堅く推移
	食材流通	需要は堅調も原料、物流費などコストは依然、高値水準を見込む
	農畜産	調達コストは高値水準が継続、国内市場は低価格志向
加工食品	加工食品	ペットフードは堅調の見込みも、為替リスクを懸念。国内加工食品は原材料高値水準を見込む
	ファインケミカル	主要顧客の在庫調整やサプリメントなど健康食品の需要低下

Appendix

2026年3月期第3四半期 連結損益計算書



	26年3月期 3Q	25年3月期 3Q	増減
売上高	8,376	8,281	95
売上原価	7,174	7,133	42
売上総利益	1,201	1,148	53
販売費・一般管理費	908	870	38
営業利益	294	278	15
営業外収益	41	68	△ 27
営業外費用	42	36	6
経常利益	292	310	△ 18
特別利益	41	98	△ 57
特別損失	13	3	10
税金等調整前四半期純利益	321	405	△ 84
法人税等	96	117	△ 21
非支配株主に帰属する四半期純利益	49	55	△ 6
親会社株主に帰属する四半期純利益	175	232	△ 57

(単位:億円)

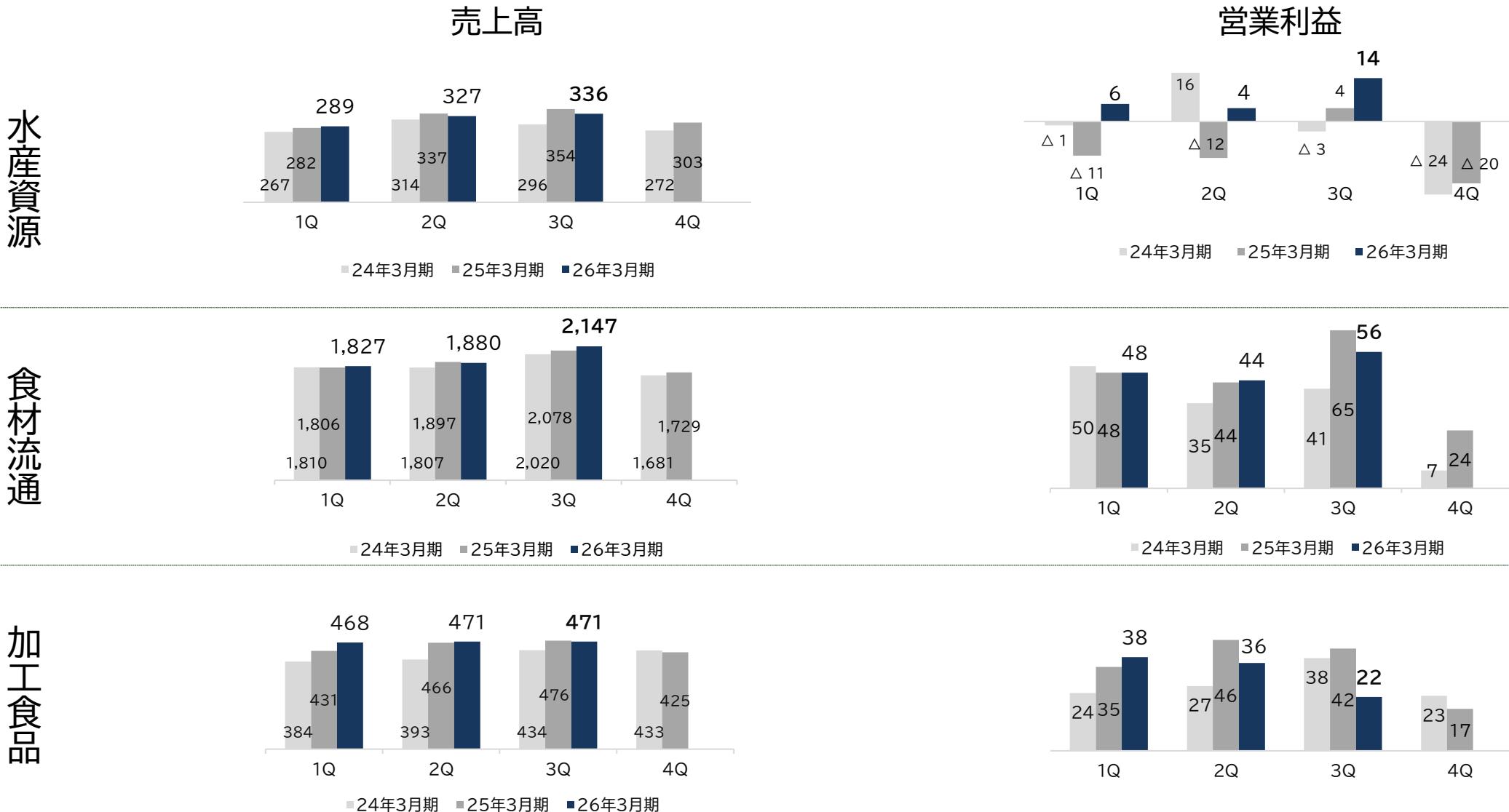
<営業外費用の内訳>

- ・為替差損 5 億円

<特別利益の内訳>

- ・投資有価証券売却益 39億円

セグメント別・四半期別業績推移



セグメント・ユニット別 四半期別実績

セグメント・ユニット別の実績推移(Excel形式)
ダウンロードは[こちら](#)から



(単位:億円)

	売 上 高						営 業 利 益						
	2026年3月期						2026年3月期						
	1Q	2Q	3Q	3Q 累計実績	4Q	通期計画	1Q	2Q	3Q	3Q 累計実績	4Q	通期計画 (26年8月5日)	修正計画 (26年2月9日)
漁業ユニット	80	82	99	262		366	0	1	10	10		△ 1	2
養殖ユニット	45	50	63	158		186	1	1	2	4		4	4
北米ユニット	163	195	174	532		796	4	3	2	10		3	12
水産資源セグメント 計	289	327	336	952		1,348	6	4	14	24		6	18
(国内 内訳)	144	157	190	491		661	△ 2	△ 2	8	3		△ 6	△ 5
(海外 内訳)	145	171	146	462		687	8	7	6	21		12	23
水産商事ユニット	1,023	1,067	1,252	3,342		4,078	32	34	38	104		111	120
食材流通ユニット	610	615	680	1,905		2,535	14	11	17	43		54	47
農畜産ユニット	194	199	214	607		703	2	△ 1	0	1		5	0
食材流通セグメント 計	1,827	1,880	2,147	5,854		7,316	48	44	56	148		170	168
(国内 内訳)	1,528	1,552	1,794	4,874		6,030	33	28	39	101		106	98
(海外 内訳)	300	328	352	980		1,286	14	16	17	48		64	70
加工食品ユニット	448	451	450	1,350		1,845	37	34	19	90		125	101
ファインケミカルユニット	20	20	21	60		81	2	2	3	7		11	10
加工食品セグメント 計	468	471	471	1,410		1,926	38	36	22	97		136	111
(国内 内訳)	303	309	321	933		1,289	12	13	10	35		54	37
(海外 内訳)	164	162	151	477		637	27	23	12	62		82	75
その他	52	52	54	159		210	2	8	14	24		△ 12	3
合計	2,636	2,731	3,009	8,376		10,800	94	93	106	294		300	300
(国内 内訳)	2,023	2,066	2,355	6,445		8,172	45	45	68	157		132	122
(海外 内訳)	613	665	654	1,931		2,628	49	48	39	136		168	177

Thank You



MARUHA NICHIRO

For the ocean, for life

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他本書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。

2026年3月マルハニチロは、Umiosへ

